

サタンの攻撃

エペソ人への手紙 6章 10～12節

「エペソ人への手紙 6章 10節から 12節」が、今日の箇所です。

聖書をお持ちの方は、お開きください。可能な方はお立ちになって、私の読む箇所をついてきてください。ご無理であればそのまま大丈夫です。

では 10 節から、使徒パウロが聖霊によって書いています。

—エペソ 6:10—

最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。

—エペソ 6:11—

悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身につけなさい。

—エペソ 6:12—

わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。

against/対抗して、というこの単語は、5回も出てきます。私はこの against/対抗して、という単語が好きではありませんが、天の領域にいる悪の霊的力に、「対抗して」神が私たちの理解に祝福くださるよう一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様。御言葉をありがとうございます。あなたの御言葉の中で、今日、私たちの前にある箇所に感謝します。主よ、あなたが必要です。私たちの心を落ち着かせ、完全に集中できるよう、私たちを導き、あなたの御言葉を通して、人生に語りかけてください。そうしてくださらないと、今日私たちのためにあなたをご用意くださったことを見失ってしまいます。私たちの誰も、それを望ん

でいません。主よ、あなたはいつもご忠実であられ、私たちの人生に、御言葉を通して、はっきり語り掛けて下さいますように。イエスの御名によって。アーメン。
ご着席ください。ありがとうございます。

では、今日は、クリスチャン生活における、「悪魔の攻撃」の現実についてを話したいと思います。皆さんが私同様なら、そうだと思いますが、イエス・キリストを知って救われてから、霊的な戦いが、大変現実なのを認識するまで、さほど時間はかからなかったのではないかと思います。たぶん、これも皆さん同様だと思いますが、思ってもみなかったため、不意打ちを食った！と思ったでしょう。主を愛するが故に、主に熱くなり、主に仕えていたら、どこからともなく「ブーン！」悪魔の攻撃が襲って来ます。「これは何だ！」となります。以前にお話ししましたが、私は、特にこの節を学ぶ事を、かなり前から、ずっと楽しみにしていました。

エペソ人への手紙の最後にあるこの箇所は、私に対して主が用いられたように、皆さん多くの方の人生で、神が非常に強烈な形で用いて来られたのではないかと思います。私は、注意深く祈りながら、この学びを進めていきたいと思っています。慌てず、じっくりと必要な時間をかけて見ていきたいと思っています。始める前に、今日理解に密接に関係する、大変重要な真理を指摘する必要があります。サタンは大変強力です。しかし、彼が神の対極だと信じるのは、大変な間違いです。彼はそうではありません。サタンは全能ではない、つまり全てに全能ではなく、彼は全知ではなく、つまり、全てに全知ではなく、同時にどこにでも存在する、遍在では決してありません。神だけが、全知全能遍在です。それを知らずに私たちはこう言ったり、「ねえ～悪魔が先週、ずっと私のところに居たの！」「え～本当に？悪魔自身

が？ほ～！凄い！」「彼がオアフ島ウィンドワードのカネオヘにいて、あなたを攻撃しているの？ほ～」それが、あなたについて何かを物語っているかもしれませんね。そうではありませんよ。「彼は2つの場所に、同時に現れられません。神だけがお出来になられます。」ただ、彼の悪魔たちと、それから今日見ていく通り、パウロがここに列挙している実体、サタンが策略し、攻撃し、クリスチャンに対抗して、この霊的攻撃を仕掛けます。ここに問題があります。大変重要なので、その点を初めから取り掛かりたいと思います。サタンが持っている力を、過大評価できます。もしくは、サタンが持っている力を、過小評価も出来ます。クリスチャンが、そのどちらかに極端に陥るほど、悪魔が喜ぶことはありません。なぜなら、これ自体、数多くある敵の成功の1つだからです。もう少しこれを詳しく説明させてください。サタンの力を安く見積もれば、私たちは、不意打ちを食らいます。悪魔が最も成功しているキャンペーンの1つは、彼が存在しないと、人々に信じさせていることだと思います。または、彼は角があって、熊手を持ち、赤いタイツの小さな生き物と思わせる。どうかこのイメージを頭から取り去ってください。彼は何者で、どんなに力を持っているか、私たちに考えささないよう、うまくやっています。しかし逆に、彼は、彼の力を私たちが誇張するようにもしています。これも同じぐらい危険です。そうする事で彼は、私たちを動けなくし、恐れの中で麻痺させます。私たちは、彼を過大評価しすぎるのです。要は、だからといって、悪魔が力強くない意味ではありません。彼は大変力があります。ただ全能ではないということです。ウォーレンの言葉だったと思いますが、「悪魔は、神の悪魔である。」彼は、被造物であり、彼が出来ることには、制限があります。一緒に学んだ方、あの興味深く、

面白く魅惑的な「ヨブ記」の学びで見ましたね。サタンは、神が許可しなければ、ヨブの頭の毛1本さえ、触れることができませんでした。神が、サタンに許可を与えられるのは、最終的な神の目的、神のご栄光とヨブの益に繋がる時だけです。別の方法で言います。神は、最終的に私たちの益と、神のご栄光にならないなら、悪魔が私たちに何をするとも決して許されません。それが真理です。その事が、私たちの多くを大変慰めます。主との歩みの中で、私が学んだことの1つは、悪魔の攻撃についての説教準備している時、悪魔の攻撃にあう！？ 冗談でしょ？

いいえ。マジです。それが物理的に、はっきり現れます。つまり、彼がそこにいるのです！「へえ～。私について話すんだ。日曜日に～～～。」「そうだよ。ああ！またお前か・・・下がれ！」私が学んでいることは、悪魔は、クリスチャンが悪魔を恐れる以上に、クリスチャンを恐れるべきだ、という事です。彼は、敗北した敵です。それを間違っではいけません。彼はそれを分かっています。彼は皆さんにそれを知ってほしくないのです。彼は皆さんを欺いて、皆さんに自分が勝っていると、信じさせようとしています。唯一彼が持てる力は、私たちが彼に与える力だけです。あ～間違っって聞こえましたね。時差ボケのせいにしておきます。もう一度言わせてください。私たちが、私たちの人生を支配する力を彼に与えてしまっているのです。私たちが、彼にそれを与えなければ、彼は無力です。そうなのです。まだ、首をかしげておられる人もいますが。確かに、彼は私たちに敵対する武器を作れます。あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。(イザヤ 54:17) なぜなら、「私たちのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。」(第一ヨハネ 4:4 参照) サタンは、私たちにそれを忘れて欲しくて、

彼が、私たちに何かを仕掛ける時、気づかないでもらいたいのです。次にパウロが、聖霊に導かれて選び用いた、いくつかの御言葉に注目していきたいと思いますので、お付き合いください。

まず、10節で使われている単語から。その単語は、「最後に。」です。興味深く、重要な言葉です。パウロが、エペソ人へのこの素晴らしい手紙を、彼が最も重要だと考える真理で、締めくくろうとしているのが分かります。彼は、それを私たちにも残しました。興味深いと思いませんか？彼が、この書簡を締めくくったその真理が、霊的戦いとサタンの攻撃の真実であるとは。これまでパウロが書いて来た事を踏まえて、またその内容にも関わらず、この内容だったのです。私はエペソ人への手紙が大好きです。最初の3章全てが、キリストにおいて、私たちに与えられている、壮大で素晴らしい豊かさに関してですから。神が、キリストにあって私たちのためにしてくださった全て。その全てが、キリストにあって私たちを待ちうけるのです。イエス・キリストの故に。そして、エペソ人への手紙の最後の3章は、神が私たちにしてくださった全てのことへの、私たちの応答なのです。しかも、以下の問題を語った後に、書かれているのが、興味深くないですか？クリスチャンの結婚や、クリスチャンの子育て、クリスチャンの従業員として、クリスチャンの雇い主として。聖霊に満たされて、パウロは、これで締めくくるのです。聖霊が彼を導かれこれをさせられました。パウロは、この手紙を、重要な真理で締めくくっただけでなく、彼は、私たちに「何を」すべきで「なぜ」すべきか、そしてさらに重要な、”どのように”すべきかを伝えています。「何を」から始めましょう。パウロは語ります。「主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。」これが私たち

がすべき「何を」です。その理由の「なぜ」は、「悪魔の策略に対抗して立つことができるように、」部分的に切り離す事をお許してください。特定の御言葉を見ているのですが、これもまた、今日理解と密接な関連があります。私たちが「何を」すべきかは、「主において主の偉大な力によって、強くなること。」その理由、「なぜ」そうすべきかは、「私たちが立つためです。」「立つ」必要があるのです。走るのではなく、倒れるのではなく、「立つ」のです。私たち自身の強さではなく、主の強さで、です。私たちの力ではなく、主の御力で、です。そして、「どのように」？ 私たちは、これを神の武具を身に着けることでします。この後見ていきますが、それは「祈り」に相對してなされます。『祈り』です。私たちは、これらの武具を覚えます。「救いの兜、正義の胸当て、真理の帯、平和の福音を告げる履物。信仰の盾、霊の剣。」でも、パウロが「祈り」と語る箇所にくると、私たちは少し先細ってしまいます。「どのように」武具を身につけるのかお気づきですか？最近このことについて、実際考えていたのですが、私の人生で祝福されているあらゆることは、「どのように」して祝福されたか？「祈り」です。ちょっとひっくり返して、違う言い方をします。祈りによって与えられる祝福以外に、私の人生に良いものは何もありません。考えてみてください。祈りによって与えられたもの以外で、良いものだと指差して言えるものは、私の人生に1つもありません。妻と私は、来月、 いや本当は11月、わ～間違えた！彼女がこの礼拝に来ていないからよかった！私が来月と言ったことは、内緒ですよ。私たちは、11月、結婚30周年記念を祝います。そこで、私が妻のために、どのように祈ったかを考えていました。そして、旧約聖書・新約聖書の両方に書いている事を、考えていました。「妻を見

つける者は、幸せを見つける」(箴言 18:22) また「人がひとりでいるのは良くない。」(創世記 2:18) を思い出しました。祈りによって与えられたのです。私の人生で、良いものは全て、祈りで与えられたのです。そこでこの書簡を終えるにあたり、神の武具に関連し、祈りの力について、お話ししたいと思います。私たちは、主において、主の御力の中で強くあるというのが、何を意味しているのか理解する必要があります。私たちはそれを言い、それを歌い、それを知っていて、暗記しています。しかし私たちは、それが意味することを、本当に理解しているでしょうか？強さと力には、違いがあります。よろしければ、1つの例を使って説明したいと思います。大変筋肉隆々の人がいます。彼を外から見て、強さの表れを見ます。しかし、彼がその筋肉を使った時に、彼の力が表われます。皆さん、彼を見て、「わお〜彼は本当に強い！」と思いますが、その力というのは、使わなければ分からないでしょう？私たちの主にある霊的力も同様です。主の強さと御力は、使って初めて表れます。私は主において強くなれる、でもその強さの発揮は、使うまで表れません。これを理解するのが大変重要な理由は、次の通りです。主におけるその強さと、主の御力の大きさは、私たちが自分の力で戦うなら、サタンと彼の悪魔と釣り合いますが、しかし、主の御力においては、サタンは、聖霊の御力と釣り合いません。パウロが、彼が弱いときこそ彼は強い、と言ったことについて考えます。(II コリント 12:9 参照) どういう意味でしょう？彼が気づいたのは、彼は、自分の弱さをはっきりと知るとその自分の弱さの中で、完全に、全面的に、主の強さの下に、依り頼みするのです。ダビデが、ツィクラグへ戻る頃の、人生で最も弱っていた時について考えます。彼らの妻や子どもたちがさらわれ、捕虜にされ

たのに気づきました。(I サムエル 30 参照) 彼らの住処は焼け落ち、彼に忠実に使っていた家来までが彼に歯向かって、殺そうとします。そこで、ダビデがしたことは、彼は、主において、自分自身を強くしたのです。それはどういう事でしょうか？おお～皆さんが人生で特に、霊的な攻撃、サタンの攻撃に遭っている時、あなたは霊的戦いを経験していて、ほ～、御言葉に浸る。すると、御言葉があなたの中に入り、御言葉があなたの中に入ると、あなたを強め、励まします。信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。(ローマ 10:17 参照)は、真実だと思いませんか？そこから強さがもたらされる。それが、私たちの信仰を強くし、信仰において励まされます。そして、信仰において力を得ます。ではここから、「なぜ」に繋がります。私たちが主において、主の御力によって強くある時、その主の御力、主の強さの中で、私たちは、「対抗して」立つ。ここに別の単語が出てきますが、「悪魔の企みに対抗して」言い換えれば、私たちは、悪魔の餌食にならない。私たちは、悪魔の企みに対抗して立てるからです。ところで、エペソの人たちは、サタンの攻撃と悪霊に憑依される事について、いくつか知っていました。「使徒の働き」でこれが分かります。エペソにいたクリスチャンの多くは、悪霊に取り憑かれていた所から解放されたと記されています。そうすることで、事実エペソは、エペソ人の魔術の本で有名でした。そこには、ダイアナ神殿、またの名をアルテミス神殿で、言葉にも出来ないほど、恐ろしい悪魔的礼拝が行われていました。恐ろしく悪魔的、非常にサタンの的で、そしてこれらのエペソ人は、そういう背景から抜け出たのです。では、「どのように」に入りましょう。この「どのように」に、時間をかけたいと思います。私にとって、最も重要であ

るからです。言っておきますが、サタンは、今日の説教を絶対に、皆さんに聞かせたくありません。彼は、今でさえ、今日この後する事や、今週の事を、今、皆さんが考えるようにし、集中できないようにしています。どうか、その手に乗らないでください。この説教を準備しようとしている時、彼は私にそれをしたのです。ですから皆さん、どうかこれから私がお伝えする事にしっかりと集中してくださいね。私たちに一番大事なことは、敵がどういう者であるか、また、敵がどういう者でないかを、知ることです。どうか聞いてください。これもまた、この特定の御言葉が発揮する箇所で、ここでは、「格闘」という言葉です。よりよい翻訳は、「wrestle/取っ組み合う」です。理由は、wrestling/レスリングは、全身の取っ組み合いで、大変消耗するスポーツで動きです。私には、ここで使徒パウロが神の聖霊によって伝えていることが、よく分かります。ここで、私たちは取っ組み合う。取っ組み合うのです。ヤコブが一晩中、主と格闘したことを考えてください。あれはイエスでした。christophany と呼び、「pre-Bethlehem appearance/ベツレヘムに現れる前」のイエス・キリストです。彼は格闘しています。全身で、素手の取っ組み合いです。となると、ここで使徒パウロが言おうとしている事の意味合いが、変わってきませんか？ なぜなら、彼が言っているのは、私たちは、靈的領域の異なる位付けの、具体的な実体と全身で取っ組み合いしているからです。対人間ではないのです。彼はこれらをこう描写しています。①支配、②権威、③暗闇の世界の支配者、④天にいる悪の諸霊の力かなりのものですよね。これらの用語を、考えてみてください。まるで軍隊みたいに、特定の位付けがあって、下の権限を支配する上の位付けがあり、彼らの上に、権限の地位がある。サタンには、彼の手下、彼の悪霊がい

て、天の領域の靈的な領域で、この権限を彼らに与えています。サタンは彼らに任務を与えます。これで少しギアチェンジです。皆さんには、イエスの御名においてギアチェンジします。私たちは、神が私たちの人生にご計画があられるのを知っていますね？そう、だから？サタンも、私たちの人生に計画があります。彼は、その策略に基づき、彼の手下を動かします。彼の計画は何か？お～！イエスがこんな風に仰っていました。サタンの計画、目的、策略というのは、これについても、後ほどお話ししますが、この順番を見てください。敵は、「盗み」「殺し」「滅ぼす」事です。（ヨハネ 10:10 参照）それがサタンの計画。彼は、皆さんの人生を滅ぼしたい。彼は皆さんの勇気を憎んでいます。皆さんの勇気が大嫌いです。では御機嫌よう。しかしイエスは、皆さんの勇気を愛しておられます。ふざけて聞こえたかも知れませんが、私があんな風に言ったから、皆さん決して忘れないでしょう？サタンは皆さんを憎み、皆さんの全てを憎みます。なぜなら彼は、イエス・キリストを憎んでいますから。これが、私がもう1つ特定の御言葉に焦点をあてたい所で、「策略」という単語です。別の翻訳では、「wiles of the devil/悪魔の策略」です。私はそれがちょっと好きです。私たちはその単語を使いません。誰かが使っているのを想像できます？「わお～何？wiles？何？while/しばらく？行ってしまうの？」とか、そうでなく「wiles/策略」です。皆さん、wilesの意味はご存知ですか？「戦略」です。狡猾な、「サタンの策略」です。これには、「こっそりと」という意味が含まれていて、本当に狡猾です。「創世記3章1節」「野の生き物のうちで、最も巧妙なのは蛇であった。」とあります。この巧妙な、策略的な、這いずり回る蛇！私がそれを強調するのは、彼が巧妙な為、察知されず、気づかれないから

です。これがまさに、敵のしている事ではありませんか？サタンが最も成功している事は何かと、私に聞かれるなら、残念ながら、たくさんありますが、クリスチャンに敵対して、彼が最も成功した策略と戦略とは、これじゃないでしょうか。彼が見つからないよう、破滅させる事。それが少なくとも、彼のリストのトップにあります。彼はそれを非常に巧妙に行う為、私たちには、それが彼の仕業とは分かりません。皆さんの人生で困難な状況の背後にいるのは、サタンです。皆さん、全てにおいて、人のせいだと考えますが、違います。人ではなく、人を通してサタンがやっているのです。「でも、彼らはクリスチャンじゃない！」おお～それなら、さらに悪いです。「何が言いたいのですか？」「牧師さん、サタンが、クリスチャンを通して働くと言うのですか？」もうちょっとで違う言葉を言いそうになりましたが、「はい！」「そうです！」パウロが「第二テモテへの手紙」に書いています。これを聞いてください。彼は、牧師としてのテモテに勧告します。「愚かで無知な議論は…避けなさい。」(II テモテ 2:23) 私は、神の御言葉の実直な所が大好きです。その理由は、「それが争いのもとであることは、あなたが知っているとおります。主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせてくださるでしょう。」そうです！「それで、悪魔に捕えられて、思うままにされている人々でも、…」(II テモテ 2:23～26 参照)「何ですって？テモテは牧師で、これは教会に、クリスチャンに書かれている。パウロ、そんな馬鹿な！」「これを教会にいるクリスチャンに言っているの?!」「目ざめて、悪魔のわなをのがれる必要があるの?!」はい。「なに?!」

その理由を知りたいですか？悪魔が捕えて、思うままにしているからです。「この箇所に来るまでは、大丈夫だったのだけど。」と言いたげな目で私を見ている人がいます。これが多くを物語っていると思いませんか？ポイントは、サタンは、大変巧妙に、見つからないように、クリスチャンを捕らえて、彼の意のままにします。そして私たちは、彼らと格闘し、もがきながら、戦い口論します。でも彼の仕業です！もし、私たちが間違った戦いに挑むなら、勝利の盃を味わうチャンスはないと思いませんか？間違った敵に対して戦うなら。サタンは本当に、それを好んでいます。残りの時間、休みを取るのです！取りませんが。任務完了。彼は教会でそれをするのです。そう彼は、教会が象徴するものの故に、教会を憎んでいます。因みに、これを言うとき、皆さん、誤解しないでほしいのですが、彼は本当にこの教会を憎んでいます。ここは、愛に溢れる教会ですから。彼らの互いの愛し方、あれは、イエスの弟子に違いない。イエスは、言われました。「もし、あなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」(ヨハネ 13:35) サタンはそれを憎んでいます。ここで締めくくるのに、驚くべき記述があります。「マタイの福音書 16 章 23 節」です。これがかなり驚愕で、少し前にイエスが尋ねられたその直後、これが続きます。そう、私たちと一緒にイスラエルに行った方、これはピリポ・カイザリヤでの出来事ですよ。イスラエルに行ったら、訪れますが、非常に魅力的な場所です。イエスが弟子に聞いておられます。「人々は人の子をだれだと言っていますか。」(マタイ 16:13) そして弟子に、聞かれます。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」(マタイ 16:15) その時、ペテロが、その心を祝福しますが、正しい答え

を言います。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」(マタイ 16:16) 良い答えです！ペテロ！この告白の岩の上に、、、どうか、これは、カトリックの教会ではありません。この告白の岩の上に、、、ペテロよ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。(マタイ 16:18) ペテロが周りの人たちを、こんな風に見ていたのが想像できません？こんな風にしたのかな？と。聖書には書かれていませんが、きっとイエスが、ガリラヤ湖で嵐の中、船の上の彼に仰った時と同じような事を、彼はしたのではないかと思います。ペテロは言いました。「私に来るように命じてください。」するとイエスは「ペテロ、来なさい。」ペテロは船から踏み出し、水の上を歩いたのです。そして彼は、主から目を離しました。そこで私は思うのです。また、私は深読みし過ぎているのかも知れませんが、彼が、イエスから目を離したのは、彼が、振り返って弟子たちの方を（得意げに）見たのではないかと。「みんな見て！私は、水の上を歩いている！♪~♪~♪~」そして、ドボーン彼は沈みます。いいでしょう。私たちが天に行けば分かる事です。ここで、イエスがキリストだと、ペテロが問いに正しく答えた事で、イエスが称賛された直後、今度はペテロは、主が十字架にかかると言われた事に対して、抗議している？イエスが、ペテロに言われた言葉を聞いてください。「下がれ。サタン。」(マタイ 16:23) 何ですって？はい。「あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」(マタイ 16:23) 皆さんわかりましたか？サタンは、ペテロを捕らえて意のままにしようとしてました。サタンが最も避けたかったのは、イエスが十字架にかかる事です。なぜなら、あの十字架で、イエスが永遠に、全人類の罪の代価の全てを払われます。そして復活の勝利を持って、サタンに敗北した

敵だと言い渡されます。サタンは、それを阻止するためあらゆることをします。ペトロの心をいっぱいにし、「ペテロ～！！」そして、彼の意のままにしようとする。結論は、悪魔は、人々に影響を及ぼします。悪魔は、状況に影響を及ぼします。そして私たちを、彼に敵対させるのではなく、血肉での取っ組み合いをさせます。それが今日の教訓です。

ところで、これは主において強く立つための、最初のステップです。そして、主の力強いパワーにおいて、私たちは、誰が敵であるかを知らなければなりません。これは必須です。武具の箇所に行ったとき、またお話ししますが、これが霊的な洞察力、霊の識別力が関わってきます。終わる前に、もう少し説明すべきかと思いますが、皆さんは人生の問題を抱えています。これが大変困惑する事、大問題で、大変気がかりで、大変ストレスが溜まります。それで皆さんは、洞察力が必要です。

(分かりました、主よ。) もうちょっと具体的に言わせてください。あなたは日々過ごしながら、全てが上手くいっている。それが突然、この、この恐れが、どこからともなくあなたを襲う。「え！どこから来たの？これは何？」ここであなたは、あなたを襲っているその恐れの原因が何かを見極めるため、霊的な洞察力が必要です。それは、どこからともなくやって来た！もしかするとそれは、サタンが、彼の悪霊を使って、恐れを霊を送りあなたを攻撃しているのかも知れません。皆さんが、それをはっきり見分ける時、それが敵を破るための最初のステップです。それをせず、敵の手に落ちるのか？そのためにバラバラに崩壊するのか？そのために無力になるのか？いえ、あなたは、立つのです。あなたは、主において、主の御力において強いのです。皆さん「恐れ」の部分をおの他のものに変えてみてください。

「意気消沈」についてはどうでしょうか？私の個人的な話で申し訳ないですが、これまでに本当に何度もあったのです。日々を過ごしながら、本当に突然、ただこの落胆がやってきて、その落胆は、絶望に代わり、その絶望が、本格的な意気消沈になっていくのです。私は自分自身を見て、この惑星で、最も祝福された人だと思いののに、そんな落胆する理由などない。その原因を、何にも、誰にも辿ることができない。その時、気づきます。お～！つまり、こうです。

ところでこれが、最後の締めくくりです。それから「預言・アップデート」に入りますが、これはそのタイミングです。サタンは、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。(第一ペテロ 5:8) 彼は、私たちにまとわりつき、私たちを攻撃するための最適な時を待っています。私たちが疲れている時が、最も弱い事を彼は知っています。何年も前に、妻と私は、重い話題は疲れている夜に、決して話し合わないと決めました。いつも喧嘩になってしまうから。私たち牧師は、これを喧嘩とは言わず、「激しいフェローシップ」と呼びます。—(笑)—

とにかく、私たちは、翌朝まで待つのです。主の憐れみは、朝ごとに新しいですから。私たちは、夜ぐっすりと寝ます。夜ぐっすり寝ると、全てが変わりますよ。

それから祈って、問題に取り組みますが、サタンは、私たちが最も弱い時を知っています。そしてその時、彼は攻撃して来ます。立つのです。倒れないで。

イエスの御名によって。祈りましょう。

天のお父様。再度、あなたの御言葉に感謝します。御言葉の具体性、その実直さ、その高潔さ、全く誤りがない事に感謝します。主よ。今日ここにいる人で、霊的攻

撃を受けている、全ての人のために祈ります。あなたが、彼らの心を励まし、彼らを強め、彼らに御力を与え、主よ、彼らの頭を上げ、彼らが立ち、勝利の中を歩むようにしてください。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 Ru